

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：山形県米沢市

## 事業名称1：米沢市SDGsプラットフォーム事業

### あらすじ

令和3年度に策定した「米沢市SDGs未来都市計画」を実行していく中で、令和5年度においては、SDGsの達成に向けた市民総参加の取組をより一層推進していくことが重要であり、SDGsをキーワードとして、市内の企業、小中学校、高校、大学、金融、団体等、多様な主体が緩やかに参画するプラットフォームの拡大を目指すとともに、持続可能なまちづくりの基礎となる市内の事業者の持続性を高めるため、今後サブチェーンに選ばれる土壌づくりとESG投資を呼び込む仕組みづくりを目指す。

### ストーリー

【課題】本市におけるSDGs推進に向けたプロジェクトの一つとして、多様な主体が緩やかに参画する米沢市SDGsプラットフォームの拡大を目指しているが、市内の事業者の参画を促すにあたり、事業活動の中にSDGsの視点を取り入れてサステナブル経営を推進することの理解が広まっておらず多くの事業者が「どのように取り組んだらよいかわからない」状況が課題となっている。

【取組】米沢市が目指すSDGs未来都市の姿を発信すること（SDGs出前講座の充実）、個人・団体等の取組をより一層見える化していくこと（米沢市SDGs「わたしのなせばなる」掲載拡大）、SDGs取組状況診断ツールを使って取組状況を可視化しながら取り組み方を学ぶ機会を作ること、事業者の取組みを市および協議会が応援することで、事業者の持続性を高めていく。

【ありたい姿】域内循環が見える米沢モデルとして広く内外で認知され、地域企業の受発注を促進するような経済の循環、そして新たな雇用創出、生産者や事業者の持続性の向上につながり、サステナブルな事業が生まれ続ける地域になる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	①鷹山公が根付かせた「ものづくりマインド」が市内経済をけん引するまち ②「現代の藩政改革」による健康長寿日本一のみち ③「草木塔」などの本市独自の精神文化を基軸にSDGsを実装する環境教育先進都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの申込をしてもらうための働きかけを検討する必要がある。</li> <li>・対外的に発信するべき取組を、より広く知ってもらう技法</li> <li>・継続的かつ対象者を拡大する研修の取組に対して多くの参加者を得られるかどうか。</li> </ul>
②課題	本市SDGsプラットフォームへの市内事業者の参画が進まず、関係者同士のつながる機会や新たな事業が生まれづらい状況にある。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	市内事業者の持続性を高め、SDGs未来都市として、地域の魅力と価値を高めていく。そのために、市内の個人や団体等がそれぞれSDGs達成に向けて取り組む内容を紹介することで、市全体のSDGsに対する見える化を図り、市内でのSDGsの普及・啓発を図ることを目的とする。	
④地域資源	SDGsの達成に向けた取組を実施している、または取り組む意欲があり、目指しているSDGsのゴールが明確である個人もしくは企業、団体等。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	見える化：取組の募集、市広報を活用した定期的な取組紹介 多様な主体をつなぐ：SDGs取組状況診断ツールのデジタル実装による、サブチェーンに選ばれる企業づくり等 SDGsの取組の拡大：研修会の開催等 SDGs経営推進支援：企業のSDGsの取組状況可視化・診断ツール実装実証事業	
⑥担い手（Who）	SDGsの達成に向けた取組を実施している人等、米沢市、米沢市SDGs推進協議会	
⑦事業で生じる循環	本市におけるSDGsに関する取組が見える化し、参画者同士がつながり、協働や新たな事業のタネの創出（新たなSDGsに関する取組の見える化）の循環が生まれる。	
⑧事業で生じる成果	米沢市SDGsプラットフォームの活性化により、市民のSDGsに対する意識醸成が図られるとともに、取組の市内外への発信の拡大につながる。	

事業名称 2 : 未利用資源（家畜排せつ物、食糧残さ）を原料としたバイオガス発電副産物による循環型農業の増

あらすじ

未利用資源（家畜排せつ物、食糧残さ）を原料としてバイオガス発電を行い、その副産物である固形分、消化液を有機肥料、液肥（植物活力剤）として農産物、果樹に使用する取組が本市で行われている。この取組を本市の循環型農業の先進モデルとして発信し、循環型農業の裾野を広げていく。

ストーリー

（課題）未利用資源（家畜排せつ物、食糧残さ）を原料としてバイオガス発電を行い、その副産物である固形分、消化液を有機肥料、液肥（植物活力剤）として農産物、果樹に使用する取組が本市で行われているが、まだ認知度は低い。

（取組）本市の循環型農業の先進モデルとしてこの取組を発信することで、地域循環共生圏の考え方、取組の内容を広く発信し、活動に共感して参画、協力する生産者、事業者、消費者等を増やし、環境リテラシーの向上を図る。生産、消費、廃棄、再生といった域内での循環が見える野菜、果樹にプレミアムを付与し、付加価値を高める。プレミアム野菜、果樹を活用したジェラード生産など六次産業化を支援していく。

（ありたい姿）域内での循環が見える化された米沢モデルが広く内外で認知され、域内でお金が回り、若者が米沢に留まり、雇用が創出され、生産者、事業者が経済的に豊かになり、それが持続され、また、消費者との緩やかなつながりが生まれ、サステナブルな事業が生まれる地域になる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	本市の地域循環共生圏の先進モデルが次々と生まれ、それらが持続し、広く知られていくことで、共感が生まれ、つながりが生まれ、エネルギー、食料を地元で調達し、本市が持続していく	発信力の強化 潜在的に次の先進モデルになりえる事業者にとどり着けない
②課題	本市の地域循環共生圏の先進モデルの価値やその重要性が理解されていない、知られていない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	現在すでにある先進モデルを広く知ってもらい、また、次の先進モデルを見つけ出し、そのモデルを知ってもらうことを持続していくため	
④地域資源	モノ：家畜排せつ物、食糧残さ、バイオガス発電の副産物である固形分（たい肥）、消化液（液肥） ヒト：生産者、バイオガス発電事業者	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	生産者、事業者が取り扱う商品・サービスに付加価値が加わる。再認識する。	
⑥担い手（Who）	本市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	知ってもらうことで共感が生まれ、事業への協力や共同が生まれ、事業が発展し、つながりが生まれ、それらが持続していく	情報発信者 NCV（ケーブルテレビ事業者（ステークホルダー））
⑧事業で生じる成果	先進モデルを知ることで、本市では地域循環がすでに達成されているという意識が事業者の間で醸成され、行動が変わる。その行動が発信される。	

**事業名称 3 : 市内事業者のサステイナブル経営応援事業**

あらすじ

事業者を対象として、本市の地域循環共生圏の先進事例を広く知っていただき、SDG s とは何か、地域循環とどのように整合するのか、自分たちの事業活動とどう関係するのかを理解していただき、次に自分たちは何ができるのか、の気づきを得て、行動を変え、売り上げを向上させるためにワークショップを開催する。

ストーリー

(課題) サステイナブル経営や脱炭素経営等、社会状況に合わせて事業者求められる取組が変容しているが、SDG s の理解が深まっていないことから、自らの事業活動との関係性が見いだせない事業者が多い。

(取組) SDG s の達成や脱炭素社会の実現と自らの事業活動との関連性や重要性を整理し、次にどのように行動をとるか具体的な取組について考えるワークショップを開催することで、サステイナブル経営を推進する事業者を増やしていく。学びの機会をとおして気づきと主体の積極性を引き出し、行動変容につなげる。地域循環の先進事例として事業活動を紹介する。

(ありたい姿) 自立した、持続可能な地域づくりが土台の事業活動が広がっていく。地域が豊かになる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	SDG s の理解が進み、脱炭素社会の実現に向けた取組が腹落ちした状態で進められ、各事業者がその取組を発信し、売り上げが向上し、緩やかなつながりが生まれ、それらが持続する	ワークショップの効果を高めるため、ワークショップ参加者を絞り込みたい
②課題	事業者はSDG s や脱炭素社会の実現に取組む必要があるのは理解できるが、何から手を付けたいのかかわからないと感じている。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	SDG s や脱炭素社会の実現と、自らの事業活動の関係性が整理され、意識が変わり、行動に移すため (売り上げにつなげるため)	
④地域資源	事業活動	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	1 本市の地域循環に関する先進事例紹介 2 SDG s とは何か、のレクチャー 3 脱炭素社会とは何か、のレクチャー 4 ワークショップ 5 次の行動を意識化する、明確にすることで、事業者が取り扱う商品・サービスに付加価値が加わる。再認識する。	
⑥担い手 (Who)	本市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	緩いつながりが強化される 域内で経済圏が構築される	リアクト米沢 EPO東北 商工会議所、各組合
⑧事業で生じる成果	事業者が脱炭素社会の実現、地域循環、経済構造の転換を図るための意識や気づきが生まれ、行動に移していくことで、売り上げが上がる。 活動を発信し、事業活動は、自立した、持続可能な地域づくりが土台にあると認知される。	